

# 週報

2024年度 教会標語

「主につながり、その枝としてひろげて」

&lt;先週の説教から&gt;

『平和聖日・ルカ⑩一主にあって

私の心は喜び』 武田真治牧師

サムエル記上 1:21~2:11 ルカ福音書 2:34-38

本日の礼拝は、教団の暦では「平和聖日」と定められています。この日を定めようと提案した人達は、もともと原爆に被爆された広島牧師たちでした。こんな無差別に人間を殺してしまう兵器を使ってしまう戦争を二度と起こしてはならないという願いがその中心にある思いでした。ただ、この平和聖日の制定を提案した年は1962年でした。敗戦からかなりの年数が経っているのは、被爆牧師が高齢になり、天に召された状況があったからでした。このままでは原爆のことも風化していってしまうという危機感からでした。広島教会の礼拝に出席されていた被爆牧師の一人、宗藤尚三先生も天に召される際に『あとは任したよ』と言われた言葉を、私も忘れられない遺言です。

聖書のクリスマスに関わる出来事には、高齢者が多く登場して来ます。特に幼子イエス様が生まれてからまもなく清めの儀式のために神殿に連れていかれた時に、シメオンとアンナという二人の高齢の信仰者が“救い主に会うことが出来た”と喜び様子は感動的でもあります。そして、シメオンは『今こそ、お言葉通り、この僕を安らかに去らせてください。』と語っています。次に来るであろう時代が“救い主”に導かれる、良き時代であることを確信して、もう思い残すことはないと賛美しているのです。私たちもかくありたいと願いますが、一方で、このような主の導きに対する強い確信や信念があるだろうかと思わされる言葉でもあります。

もう一人のアンナ(=ヘブライ語ではハンナ、恵まれた者という意味)は、しかしシメオンとはまた別の反応をしています。彼女は「若いとき嫁いでから七年間夫と共に暮らしたが、夫に死に別れ、八十四歳になっていた。彼女は神殿を離れず、断食したり祈ったりして、夜も昼も神に仕えていた」のでした。そこに連れて来られたイエス様と出会い、彼女はすぐにこの幼子こそ救い主だと見分け「近づいて来て神を賛美し」たのでした！彼女が救い主であることに気が付いた

のは、彼女が「女預言者」であったからだと聖書は告げています。しかし、シメオンのように「この子は多くの人を倒したり立ち上がらせたりするために定められています」というような“預言の言葉”は語っていません。むしろ、イエス様と出会った後は「エルサレムの救いを待ち望んでいる人々に幼子のことを話した。」のでした。『本望だ、もう思い残すことはない』と終わるのではなく、他の人々へ語り出したのでした。これこそ“伝道”です。アンナの話を聞いた人たちが(半信半疑であったとしても)この三十年後にイエス様が実際に活動を開始された時に『ああ、アンナの言っていた方はこの人ね、アンナの言葉は間違っていなかった!』と納得しイエス様こそ救い主だと信じたのではないのでしょうか。今は聞いてもらえなくても、いつか、あの人の言葉は大事なことを語っていたのだと思えてもらえることを目指して!

\*\*\*\*\*

## 【今週の集会】

\*聖書研究・祈祷会 I. 休会  
II. 休会

## 【教勢報告】

主日礼拝 男14 女47 計61  
祈祷会 I. 休会 II. 男1 女3 計4  
日曜学校 幼稚科8 小中科7 計15

\*\*\*\*\*

## 【次週主日礼拝】 8月18日(日)

聖書: イザヤ書 40:3~5

ルカによる福音書 3:1~9

説教: 「ルカ⑩一でこぼこの道を平らにする者」

武田真治牧師

讚美歌: 17(1)、32、300、193、441、

## 【次週当番表】 29(1)

司式: 金刺長老 奏楽: 羽倉 礼拝: 金刺長老

献金: 鈴木 鈴木 受付: 飯島 吉岡

会堂準備: 木村 小杉 冨澤 長田

橋本 北條

看板: 曾我 週報: 吉岡 お花: お休み

## 【次週集会予定】

礼拝前: ・求道者会 ・聖書輪読会

礼拝後: ・お茶の会 ・牧師と語る会

オリブの葉編集委員会・日曜学校教師会・幼稚園理事會

・ダビデ会修養会「夏の会」

2024年 8月 11日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&amp;FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>